

第3回三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会

1 日時 令和3年9月15日(水) 13:30~16:30

2 場所 三豊市立高瀬中学校、和光中学校、財田小学校

3 出席者

(出席委員 9名)

- ・(1) 学識経験を有する者 A
- ・(1) 学識経験を有する者 B
- ・(3) 公共的団体の代表
- ・(4) 市立保育所長の代表
- ・(5) 市立幼稚園長の代表
- ・(9) 市立幼稚園PTA役員の代表
- ・(10) 市立小学校PTA役員の代表
- ・(13) 公募による者A
- ・(13) 公募による者B

(事務局 4名)

- ・十鳥 武志 教育総務課課長
- ・森 正憲 教育総務課課長補佐
- ・成行 秀紀 教育総務課課長補佐
- ・林 和樹 教育総務課副主任

4 欠席委員(6名)

- ・(2) 自治会連合会の代表
- ・(6) 市立小学校長の代表
- ・(7) 市立中学校長の代表
- ・(8) 市立保育所の保護者の代表
- ・(11) 市立中学校PTA役員の代表
- ・(12) 地区公民館長の代表

5 議事等

- 現地視察

6 配付資料

冊 子：第3回会議資料

7 会議録署名委員

- ・(9) 市立幼稚園PTA役員の代表
- ・(10) 市立小学校PTA役員の代表

事務局

それでは、失礼いたします。

本日は足元の悪い中にも関わりませず、第3回三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会にご参加いただきましてありがとうございます。案内にも記載しましたように、本日は高瀬中学校、和光中学校、財田小学校の視察となります。あいにくの天気、雨は少しあがっているのですが、時間も限られております。どうぞ皆さんよろしくお願ひします。それでは、出発前に委員長よりご挨拶お願ひします。

委員長

皆さん、こんにちは。今日は、2つの中学校と、小学校1校にお邪魔いたします。限られた時間ですけど、どうぞ有意義な視察にしていただきますようお願ひします。

事務局

それでは、出発いたします。本日は、15名の委員のうち9名の方に出席いただいております。設置条例第5条第2項の規定により、出席委員の過半数を超えておりますので、会が成立していることをご報告申し上げます。また、議事録署名人につきましては、名簿順とすることで、お願ひしたいと思ひます。それでは、高瀬中学校に向けて出発したいと思ひますのでお願ひします。

<高瀬中学校到着後>

事務局

それでは失礼いたします。本日は、短い時間ではありますが、視察ということで、委員の皆さまよろしくお願ひします。では、委員長より、一言ご挨拶お願ひします。

委員長

高瀬中学校さま、本日はどうもありがとうございます。私どもは、三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会として、今日が、第3回目ということになります。この委員会は、10年前につくられたもので、この度、また学校適正規模・適正配置についての検討をしているものでございます。現地視察というのは大事なものと位置づけており、引き受けていただき感謝いたしております。よろしくお願ひします。

事務局

つづきまして、高瀬中学校 千秋校長先生より学校要覧、それと事前に募りました質問について、お話しただけたらと思ひます。校長先生、よろしくお願ひいたします。

千秋校長

足元の悪い中、本校、高瀬中学校までお越しいただきまして、誠にありがとうございます。それでは、本校の概要等をお話ししたいと思ひます。改めまして、私、校長の千秋と申します。今年度で、赴任して2年目になります。本校舎ができて17年目くらいになるのですが、その前の校舎の時、ここに務めさせていただきました。それが、36年ほど前になりますが、校舎の雰囲気とか、生徒の数、職員の数、それらしぶんと変わってきております。むしろ、現在の学校の状況が新鮮に感

じられているところであります。

今日は、本校の規模の面であるとか、特徴などをお話しできればと思います。まず、ご質問にお答えする前に、学校の特色からお話ししたいと思います。詳しくは、この学校要覧を見ていただければ、生徒の数であるとか、部活動の数であるとか、今後の推移、また、職員数というのもわかりますので、ぜひ、見ていただけたらと思いますが、2年目に入りまして思うことは、この施設は本当に使いやすいな、ということですね。あとで、学校の方を3階までご案内しますので、見ていただけたらと思いますが、広いのと明るいのと、今いるこの部屋が地域交流ホールと申しまして、PTAの会であるとか、近隣の学校を集めての会であるとか、あるいは、比較的小規模の講演会であるとか、今であれば、密を避けるために、こちらで研究授業を行ったり、この部屋があるのとなので、ずいぶん違うなあと思うことがあり、密を避けるため、今は適切ではないですが、普通に入れば、現在の1学年120名は優に入ります。いすを並べても入ります。学年集会などもできるということです。それから、生徒数ですが、ピンク色の冊子を開けていただくと、生徒数の実態というのがあります。現在336名、1年生が4クラス、2年生が4クラス、3年生が3クラス90人と少ないのですが、今後は再び1学年120名少々という数が見込まれているところですが、3クラスから4クラスということで、生徒同士や生徒と我々教職員が、まとまりやすいサイズになっているかなと思っています。これは、規模的なこととはあまり関係ないかもしれませんが、本校では縦割り活動と言って、上級生から下級生に学校の良さや伝統を伝えていくことを、一番の売りにしています。今週末に体育祭を予定していますが、その演技から、高瀬中学校の伝統というものを3年生が伝えるということ、ずっとやって来ております。昨年から今年にかけてコロナウィルスの関係で、なかなかいろんな行事ができづらくなっていて、そういった力を発揮する機会が少なかったのですが、ここへ来て、ようやく自分たちもそのやりがいを感じながら頑張っているところです。それに伴って、あんな上級生になりたいという感想を持つ後輩たちの感想も、よく聞こえてきます。それでは、ご質問に答えてまいりたいと思います。最初は、少人数の学校はあまり競争になることがないのですが、適正規模校では、良い意味での競争、切磋琢磨は見られますかという質問です。私も、これまで小規模の学校や、ここよりもう少し小さな学校に赴任したこともあります。それから、全生徒が1小学校のみから上がってくる中学校に務めたこともあります。よく言われるのが、少ない人数だとなかなか競争に

なりませんよね、ということですが、だからと言って最初から、競争にならない、切磋琢磨が見られない、ということをお欠点、短所としてしか考えていないのなら、学校として伸びる余地はないわけです。その良さもあり、だからこそ、どうするかということが大事だとは思いますが。そういったことで、現在のところ、競争という意味では、やはり、個々の競争もあります。また、高瀬町では5つの小学校から、入学してきますので、成績、学習そういった面、また挨拶であるとか、発表であるとか、エコ活動と申しまして、リサイクルの廃品集めなども競ったりしています。それから、先ほどの縦割り活動も盛んですので、体育祭の演技指導や、合唱コンクールでは、上級生が下級生に指導をする、下級生は上級生の姿を見て、自分たちもああなりたいとモチベーションを上げたりしています。モチベーションを高く持つということでは、他者との競争というものも大事だと思いますので、多に越したことはありませんが、非常に子どもたちを動かすうえでは、現在の1学年3クラスから4クラスというのはやりやすいと思います。私が以前、こちらに赴任しました36年前には、8クラス7クラスありました。そして、41～42名学級でしたので、280名くらいの1学年の数でした。ほぼほぼ現在の全校生徒数と、当時の1学年が一緒くらいになってきているかな、そのくらいの違いも見られます。2つめ、タブレットの使用状況ですが、どのような授業に使われ、どのような使われ方をしているのか、また、そのデータの管理方法、分析結果など、あらゆる情報が欲しいということですが、ご承知のとおり、GIGAスクール構想により、市の方から1人1台のタブレットを配布いただいております。現在は、校内のみで使用しております。まだ、家庭の方に持って帰ってということはありません。今後、休業休校のような装置が取られる場合は、タブレットを使って、遠隔学習に入る準備はしているところです。具体的に、どのようなことに使っているかということ、ドリルが主になっています。自分のペースで、問題を解き進んでいく、3年生になりますと、朝の20分を使って、従来なら、紙の問題集を買ってやっていたのですが、現在はタブレットで、これも市の方で導入いただいているAIアプリを活用する等して、自分のペースで学習ができていますし、授業中にですね、自分の姿を映し、自分を振り返って学習する、特に多いのが技能系の教科で、保健体育であれば、個人競技をしているところを撮影し、長所や短所を確認するといったようなことにも活用しているようです。3番目、デジタル端末を導入して、子どもたちは見る聞く集中してノートに書くということはありませんでしたがということですが、主旨としては、

デジタル端末を導入して、見る聞く書くという動作がどう変わっていったのかというご質問でないでしょうかと解釈します。現在、多くの教科で、電子黒板を活用しています。普通の黒板であれば、文字を書き、掲示物を貼り、そうしていたものが、電子黒板では、動画などのデジタルコンテンツも表示できます。それを見たり、モニタ画面上に書き込むなど、非常に有効に活用させていただいております。特に、若い教員は頻繁にそれをしており、子どもたちは、それをしっかりと見ながら、自分のノートに課題を書いたり、問題を解いたりしています。手元の生徒用のタブレットと電子黒板を連携させてとなると、まだまだそこまで先進的な取り組みはできておりませんが、タブレットは補助的な役割と言いますか、調べ学習であるとか、ドリルであるとかに使用しているのが現状です。デジタル端末や電子黒板を使うことがメインではありませんので、あくまで方法として、従来どおり紙のワークシートが良ければそれです、そういう授業がほとんどですので、生徒は今まで通り、集中して授業を受けられているなど感じています。4番目のご質問ですが、町内5小学校との連携や地域性を生かしたPTA活動等の特色を教えてくださいということですが、コロナ禍でありますので多少規模が縮小したりとか、計画したものができなかつたりということではありますが、正直、生徒同士が協働するとか、連携して行うことはあまりございません。PTA活動としてですね、小学校と資源回収活動をすることはありますので、中学生が、自分が出た小学校区の方々と協働する行事というのは、それが年2回ほどあります。連携と言いますと、どの学校も行っていると思うのですが、生徒に関しての情報連携や情報交換は適宜行っていますし、それ以外にも、小学校との授業の公開も盛んにありまして、教員間の授業参観、また、つながりを大事にする行事としては人権学習、それらで学習内容をお互いに研究したり、授業のスキルを高める、中学校であれば小学校から学習してきたものを踏まえてになりますので、その学習内容を授業作りに生かしているところ です。5番目ですが、全校生徒は何名ですかということで、ピンク色の冊子にありますように、その表から1年生が1人減となり123、2年生が122、3年生が90、現在は335名です。今後、全体の推移ということで令和8年度までを示してありますけれど、多少、小学校から中学校へ上がる時に転出されたりする方もいますが、350から360、370で推移するものと、現状、そういったところです。その他ですが、1学年7クラス8クラスほどの規模の学校、三観地区にはそのような規模の学校はなくなってきましたので、私もここ数年はそういった規模を

経験をしておりませんで、それと本校の現状 3 クラス 4 クラスを比べたうえでの課題というのは、考えつきもしませんし、それぞれの現場に行きましたら、いろんな環境があります。色んな教育発表、研究レポートなどを見てみると、毎年のように、同じような課題を書いているところもありますけど、冒頭言いましたように、学校規模それぞれありますが、最初からそれ自体を長所だ、短所だなどと決めるよりは、生徒一人ひとりを見て教育をしていくことが大事かなと思います。また、施設的には、本校、全く問題はありません。非常に明るく、広く作っていただいています。玄関から入っていただいたので、おわかりいただいたかと思いますが、どこの学校に行っても、あれほど広い昇降口はありません。最後になりますが、学校要覧で4 生徒の実態 の(2)部活動の各項目があります無所属と書いてありますが、現実には無所属はおりません。校内の部活動には所属していないということで、校外で水泳であったり、新体操、サッカーなどに個人的に加入している生徒がほとんどです。5 職員数一覧 ご覧いただきますと、5月1日現在で、教員が29名、職員を含めると39名ということになります。簡単ではございますが、以上とさせていただきます。

事務局

ありがとうございました。前もって、質問をお渡しさせていただき、それに沿って、学校の特徴などをお話しいただきました。時間も限られておりますので、この後、高瀬中学校の施設の見学の方に移ろうと思います。なにぶん、入ってきてわかるとおり、廊下も広くとってあったり、色々、特色があろうと思いますので、よく見ていただければと思います。よろしくお願ひします。

<施設内見学>

事務局

1階から3階まで見せていただき、ありがとうございました。それでは、バスの方に乗っていただいて、和光中学校のほうへ向かおうと思います。

<移動>

<和光中学校到着>

佐藤校長

皆さん、こんにちは。ようこそ、お越しくださいました。時間的に、間もなく授業が終わり、生徒が下校になります。3学年1クラスずつで、この上の階に並んで教室がありますので、そこを歩いて見ていただいた後に、作法室でお話しさせていただければと思います。生徒がいるところを見ていただくということで、できるだけ素早くいきたいと思ひます。お願ひします。

<施設内見学後>

事務局

失礼いたします。和光中学校の視察ということで、先に施設を見せていただきました。ちょうど、子どもたちが帰る時間帯ということだったんですが、どうでしたでしょうか。コロナ禍の中ということで、短い時間ではありますが、よろしく申し上げます。それでは、当検討委員会の委員長を務めていただいております、香川大学教育学部副学部長 先生より、一言ご挨拶申し上げます。

委員長

和光中学校さま、本日はどうもありがとうございます。私どもは、三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会ということで、7月に第1回目をもちまして、本日が第3回目ということになります。10年前にこの委員会がありまして、主に小学校についての答申をしました。現在、年度末に向けて審議しているところですが、現地視察というのは大事なものであり、それをお忙しい中、快く引き受けていただき感謝いたしております。よろしく申し上げます。

事務局

ありがとうございます。それでは、早速なんですけど、和光中学校 佐藤校長先生より、学校の要覧、それと事前に取りまとめさせていただきました質問に対するご回答など織り交ぜながら、進めていただきたいと思っております。

佐藤校長

はい。見開きの学校要覧ですが、情報がたくさん載せてありますが、クラス数はもうずっと1学年1クラス、いつからかはわかりませんが、20~30名で、2クラスにぎりぎり届く年もあります。現に、今の1年生が、人数で言うと36名、9月から1名、転入生が入り37名です。1年生と2年生が、香川県型の指導体制ということで、35人学級にしています。36人いれば2クラスにできます、教員も加配されます。1学期スタート時点で36だったので、ぎりぎり2クラスになれるんですが、特別支援の生徒が1人おり、それは別クラスとして算定されますので、35人上限いっぱい学級になっています。教室を見ていただきましたが、あの人数でいっぱいいっぱい、あれでもし、40人学級となると非常にきついものがあります。1年生はそういう感じで、ここ数年では1番多い学年ですよ。2年生は、逆に24人で、支援学級が2人いますので、普通クラスの方は22人と少ないです。全部合わせて、学校要覧では92名となっていますが、1人増えて、現在は93名です。本校はこれから、80~90人台でしばらく行くと思います。私が認識する生徒推移の範囲ではそこまで、それ以上になってくると、市に聞いていただいた方が良いと思いますが、そのうちに、仁尾中学校と逆転するのでは、という推計が出ていたと思います。つまり、仁尾中学校の方が、人数の減りが大きくて、仁尾中がうちと同じ1学年1クラスにな

って、全校生徒数自体も逆転するのではないかという気がしています。部活動については、一番最後のページに載せてありますが、小さい規模の割には多いんです。7クラブあります。バレーボール部がずっと休部状態だったんですが、強い希望があって、メンバーは6人に足りていないんですが、今年、活動を再開しています。だから、また一つ増えてですね、この表を見てももらえればわかるように、今、3年生が引退しましたから、団体競技として成り立たないクラブが、野球、バレーボール、卓球も2年女子4名と書いてますが、参加できていない生徒がいて、実質2名なんです。団体戦出場は厳しいということで、これらのことが大きな課題になっています。あとは、質問にお答えする中で関係してくるところかなと思います。

事務局

今、要覧から、学校の概要を説明いただきました。続いて、和光中学校への質問事項ということで、まとめさせていただいておられます。これに沿って、お願いできますでしょうか。

佐藤校長

はい。少人数化が起こり、子どもたちや保護者が困っていることはありますかという質問ですが、まあ毎年のように出てくるのが、やはり部活動のことです。今年、バレーボールは、私の考えで活動を再開しています。再開の条件は、チームとして出られる人数がそろえば活動再開ということなんです。今年は4名だから、それだけでは足りないんですが、そこは無下に駄目だと言にくいところがあります。現在の小6から、2人ないし3人は中学校に上がって入部してくれそうなんです、来年はチームとしてできますということを言われ、今の4名も高校でバレーを続けたい、空白の3年間を過ごさせたくないんだということが、保護者の方から言われるんですよね。今までも、そういうことはあったんですが、少し俗っぽい言い方をしてしましますが、この休部というのは揉めるもとになります。そこまで希望を言われると、チームができなければ認めないと言い切れることもできなく、ただ、チーム競技は活動していくうちに困ってくるんですよね。最初はやる気があっても、少人数ではなかなかモチベーションが維持できないこともあって、毎年どれくらい人数が入ってくれるのかなと気にかかるところではあります。今年度中には、校内で話し合って、次の段階、といいますのは、クラブを作らない。例えば一定の期間をとって、2年間から3年間入る生徒がいなければ廃部、それもやむを得ないかなと思ったりしています。そうしなければ、今、色んな部が少ない人数になって、共倒れみたいになりかねませんのでね。それから、クラス替えがないです。1年生は、小学校の時に39名いましたので、クラス替えがありました。中学校に

上がるときに他の校区へ行った人もいて、1クラスになりました。2年3年は小学校の時から、1クラスです。よく言われるように、変化がないので、刺激がないと言いますか、人間関係で一度崩れると、あとはがたがたになってしまうと言うか、あとの対応がちょっと大変、そんなことも聞きます。また、これも私はどうかと思いますが、競争心が高まらないと言われます。私は別に、そこまで関係ないと思っているのですが、言われるところでは、競争心が育たない、とのこと。2番ですが、タブレットの使用状況、これは、市が一気にGIGAスクール構想で整備をしてくれていますので、活用をしていかと、ということなんです。これは様々問題もあり、持ち帰って家庭学習でタブレットをやるということをとってもですね、市が基準を作ってくれていますが、小学校1年から中学校3年まで同じような基準では難しいだろうということもあり、非常に市教委とやりとりしながら、まだ、あまりスムーズにはできてないと私は思っていますが、何よりですね、ネット環境が全家庭に整っているわけではない、その環境面が整ったとしても、使いこなす教員側の問題もありまして、そう簡単にスイスイと使えるわけではないし、今の教員構成ですが、50代特に50代後半も多いです。そういう人は、これから使い方、授業の方法を覚えるっていうのも難しいです。小学校で英語が教科化したのと同じように、今まで長年やってきたことを、1から覚えなおすということは厳しいです。本校は、管理職を除くと教諭が10名ちょっと、1教科で1名です。それぞれの教科に、必ずしもICTに精通した職員が配置されているわけではありません、現状ではないと言ってよいと思います。そういう全員素人みたいな中で、さあ使いなさいと言われても、なかなか厳しいところもあり、今日もこの会議と別に、校内研修を行っています。主題としては、そのICTのことをやっています。授業に少しでも使ってもらえるようにということですね。それと、授業でどのような使われ方をしているのかということですが、9教科中で一度でも使ったことがあるというのが、6教科です。3教科については、全く使えていません。これも、先ほど教室を見ていただきましたが、少人数教室の方に市が配置してくれたボックスがあって、普段すぐ使うためには、そんなところにあっては使えないので、机の横に下げしておくか、中に入れておかなければだめなんです。今は、そうして、机の中に入れていて、授業で使うとき、さあ出してということで、使えるようにしています。でもそれは、普通教室でやる授業でないとだめで、特別教室へ行く授業、音楽や理科になると、途端に心配が出てきます。教室移動中にガチャンと落とすと

か、そんな危険性は普通にあり得ますよ。そういうところで、活用徹底はしにくいところがあります。また、使ったことがあるという6教科の中では、夏休みから数学、理科、英語については、市が推奨してくれているキュビナというAIドリルをやらせました。3年生は家庭のほうに1ヵ月間、持って帰らせてやりました。あとは、良く増えているのが、グーグルのクラスルームというアプリで、教員と生徒がやり取りできるやつ、ワークシートをタブレット上で配布して、そこで生徒が仕上げていく、その内容が教員もわかる、つまりペーパーレスですね、紙のプリントでやっていたのが、ペーパーレスでできる、全部データ上でできる、そういうのをやる教員が増えてきています。まだ、そこまで大そうに言えるほどできておりませんが。それと、英語だと、英作文に翻訳アプリを使うですとか、今年度の教科書から、デジタル教科書を全教科入れていただいていますので、それも有難いと思っています。前年度までだと、1教科しか入れていただいていたので、高いんですよ、20万円ほどするらしいので。あとは、調べ学習、そういったもので使っていますが、まだまだです。データの管理ですが、管理が必要な成績とか、そこまでのものは、まだありませんので、今、特に必要に迫られてはいないです。これも、先々で活用が進んでいけば、昨日ですかね、東京の町田市ですか、事件が起きていましたね。貸しているタブレットによるいじめで命を絶った生徒がいたと。本校では、今はまだ懸念されるような活用までなっていないです。それと、校外のチームへの参加が部活動の衰退につながっていると思いますかという質問、これはですね、この生徒数ですので、一応、全校生徒に部活動に入っただけをお願いしていますし、入ってもらってはいますが、ただ、これもなかなか、どう言いますか、個別に全員にというのは難しいかな、と。毎日、夜に校外クラブで練習をしておってですよ、土日もそこで活動している。なおかつ、そこに重ねて、普段の夕方は、中学校で部活動もしてください、土日は大会に出てくださいというのも少し変であるかな、と。校外で、もちろんやってもらっていいし、試合もそちらを優先してもらっていいんだけど、学校は学校で両方重なるときもありますし、大会の時は、その子はいないと顧問も考えなければなりませんよね。それが技術のある選手であれば、なおさら困るんですよ。練習の時、中心的な存在なのに、試合にはいない、となるとね。ですから、校外チームが、部活の衰退にはつながっていませんが、難しさにはつながっているということでしょうか。それから、部活動で言いますと、他校もそうだと思いますが、スポーツ少年団がありますよね。あそこのつなが

りは、制度としては何もないんですよ、全くの別組織であるので。スポ少は、県なりに上部組織があつての下部組織、指導者がおつたらやりましょうということで始まっていきますが、それとはまったく違いますので、中学校の部活にある競技がスポ少にもある、それは私もいいと思います。でも、スポ少にあるけど中学校にないというのが、珍しくなくなっているんですよ。今、バレーがそうなんです、スポ少にあつて、中学校になかつた、だから強い要望が出てしまう、それが学校としては非常に困るんです。次に、山本町の生徒が和光中にすべて変わった場合、受け入れ可能か、これは市の方がわかるのではないかと思います。私が知っている限りでは、山本小学校はたぶん、1学年50~60名ではないでしょうか。そうすると、財田小学校と合わせれば、1学年が2クラス3クラスのぎりぎりどちらか、90前後ですね。本校は、この校舎ができてからは1学年2クラスまでしかなかったはずですが。校舎を見ていただいても、そのような作りにはなっていませんよね、向こうの棟は、すべて特別教室です。ただ、10年後どうなるかという、子どもの数が減って、たぶん1学年2クラスで収まるんですよ。財田小学校と山本小学校を合わせても、たぶん、そうでなかろうかと思いますが、詳しい推計などは、ちょっと私はわかりません。それから、生徒が好きなクラブに入れられない場合ですが、先ほど申しましたように、願いをして、何とかしてきているという状況です。でも、個別に全員には難しい。校外チームの方で、毎日のように、熱心にやっている子にとっては、ちょっと無理なお願いだろうと思います。それから、生徒数の減少によって、一番感じていることは何か、ですが、これはですね、生徒数が減っただけで、競争心がどうのとか、それは、私自身、あまり思ったことはないです。やりようは色々あると思うので、小規模でも、それなりのやり方があると思っています。一番、私が問題を感じているのは、生徒数が少なくなるということは、クラス数が少なくなる、クラス数が少ないということは、教員が少なくなります。そのことに、一番困っています。現在は、1教科1教員すらも、充てられないです。他校との兼務、市からの加配、そういった人員で賄っています。1教科に1人の教員がいないんです、うちの場合。1教科に2人いるという年がめつたにないのです。他校でもですね、1学年3クラスから2クラスになるところが増えているということで、各教科も2人までが多いですよ。以前はどうかという、私が若手の時代で、1学年6クラス7クラスという頃もありました。そうすると、私は専門国語なんです、校内に5人同じ専門科目の教員がいたんですよ。教科の会議が毎週ありまして、

教科研究が校内でできていた、今はもう、全くできません。他の学校でもできませんね、今言ったように2人くらいなんで、上の先生に相談くらいはできるかもしれませんが、ほとんどしてないでしょうね。そういうところは、1人の先生に任されているという状態です。それは、教科指導力の向上という意味では、難しい点があると思います。生徒指導、学力指導の問題点としては、生徒指導は少ないと管理しやすいです。廊下一本で、90名の全校生徒見れるわけなので、目は行き届くんですよ。トラブルの早期発見がしやすい、大きなことは起こりにくい、対応もしやすいです。学力についてはですね、先ほど言いましたように、教員数の少なさというのが、やはり影響しています。こんなことを言うてはいけませんが、教員の質の向上を求められているのは、その質が問題となっているわけですが、本校のように、1教科に1教員がいるかないかという規模になってくると、つまり、その教員が、もし十分でなければ、その教科は全校生徒の学力、学習に対する指導力が低下するわけで、それは即、影響してきますよ、もちろんね。ですから、規模が小さいから学力指導が、というよりは、それが教員配置数に、という意味で結び付いているのだと思います。本校のような規模では、指導力の十分な先生が、全教科に揃うということは、はっきり言ってないです。次に、部活動のことですが、先ほどにも出ましたが、チームとして活動できていないのが、野球、卓球、バレーボール、吹奏楽も今年度1年生女子が8名入ってくれましたが、昨年度までだと、吹奏楽なんてできないような人数でしたね。それから、バスケットボールも一時、休部になっていました。剣道も1名いるかないかという学年がずっと続いています。団体戦のチームは組めません。最近の状況をよく表しているのは野球ですね。本校は9人いないので、大野原中学校と合同チームを組んでいます。バレーボールは、この夏休みから、仁尾中学校と合同チームを組んでいます。そういう状態で、野球部については、三豊観音寺で11チーム、11校がクラブとして存在するのですが、今年、単独でチームを組めたのが、5校のみです。半分以上の6校が、合同チームで、単独では出場できない。本校と大野原、詫間と三野津、仁尾と豊中でそれぞれ1チーム。ですから、将来的なことを考えれば、私の個人的な考えも含みますが、市単位でチームを組んではどうか、あるいは、三豊市で数チームでもいいですが、学校の枠組みを超えて、野球なら野球の競技をやる、バスケットをやる、そういう時代になっていくのかなと思います。指導者をどうするかということも課題ですが、それと同時に、子どもが少なくなっていることで、チームをどうするかという課題

がありますので、そこを考えていかななくてはならないと思います。ただ、今の案であれば、指導者不足の課題はかなり解決されると思いますよ。教員の中には、指導をしたい教員も、たくさんいますから。逆に、しなくていいなら、したくないという者も、たくさんいます。部活動指導に力を入れたい、魅力を感じて教員になった、そういう人たちは、今の流れ、外部指導者やコーチをお願いして教員負担の軽減を、ということには賛成していないですよ。でも、市単位の中学校クラブとすれば、やりたい教員は、そこでやればいいわけですよ。はっきりしているんじゃないかと、個人的には思うんですが、過渡期の対応として、どうかと思ったりしています。その部活動と、働き方改革はすごく言われていますが、本校も超過勤務に対して、非常に改善を図っています。私が赴任して2年目ですが、その前は、おそらく月平均70時間ほど超過勤務があったと思います。80時間で診察を受けないといけませんからね。去年は、正確なデータが4月5月はなくて、6月から土日を含めて、全部取ったのですが、1年間平均で月47時間まで改善しました。今年目標は月45時間で、45時間が法的なラインですよ。これも、月によって全然ちがうですよ、4月なんかは、とても忙しい、どんなに頑張っても、月60時間を切ることは難しいです。部活動をしていれば、普通にやっても、土日を含めると月60時間はいくんです。6時に部活を終えて退勤したとして、朝も始業時間は8時ですが、そんな時間に来る職員はいません、だいたい7時30分には来ます。そこで、30分は超過勤務が発生します。4時30分に授業が終了し、6時まで部活をしたとします、そこで1時間30分、あわせて2時間になります。でも、それで帰れる職員なんて、ほとんどいないですよ。部活をやっていたら無理で、夏時間になれば、終了時間が6時30分になります。土日に2時間または3時間、最近はどちらかは休まなくてはいけないとなりましたが、それで月60時間にはなるんです、普通にやっていたら。去年、月47時間にできたのは、夏休みはほとんど超過勤務をしなくてよいのと、冬の部活終了が5時までの期間に頑張った結果である、と。これ以上は、なかなか厳しいと思います、部活動のことが改善されない限り、どうにもなりません。部活動の数は7つです。だいたい、質問についてはよろしかったでしょうか。

ありがとうございました。質問事項に沿って、お話いただきました。佐藤校長先生のお人柄がよく感じられたと思うんですが、包み隠さず、今の現状をすべて伝えようというご回答だったと思います。学校要覧の中を見ていただきますと、昭和59年5月に、この校舎が落成してい

ます。かれこれ 37 年が経過しているということになっています。40 年に手が届こうかという施設で、色々不具合も生じてこようかと思いません。先ほど視察した高瀬中学校は比較的新しい中学校となっていますが、他の中学校はどこも 30～40 年の校舎になっております。そこもふまえて、今回の視察を生かして、再編統合の課題のひとつに入れさせていただこうと思っております。かなりお時間も来ており、申し訳ありませんでしたが、質問の回答部分と、校舎の施設見学含めまして、貴重なお時間いただきまして、ご案内とご説明のほうありがとうございました。それでは、まだまだ聞きたいこともあろうかと思うのですが、この後の時間もありますので、このまま財田小学校の方へ、移動したいと思います。どうも、今日はありがとうございました。

<移動>

<財田小学校到着後>

事務局

失礼します。3 施設目ということで、財田小学校の視察を始めさせていただこうと思えます。短い時間、限られた時間ではありますが、よろしく願いいたします。

委員長

丸岡校長先生、本日はどうもありがとうございます。私どもは、三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会ということで、7 月に発足いたしました。本日が第 3 回目ということになります。月に 1 回、会合もってございます。現在、年度末に向けて適正規模・適正配置の答申を出す予定です。その中でも、現地視察というのは重要なものであり、お忙しい中、快く引き受けていただき感謝いたしております。よろしく願いします。

事務局

ありがとうございました。それでは、財田小学校の丸岡校長先生より、学校の要覧、それと事前にまとめさせていただきました学校に対する質問も織り交ぜながら、お話ししたいと思えます。校長先生、よろしく願いします。

丸岡校長

皆さん、こんにちは。財田小学校で校長を務めさせていただいております、丸岡典子と申します。今日は、学校視察が、本校で 3 校目ということで、もうそろそろお疲れが出るころではないかと思っています。どうぞ、財田小学校では、気楽なお気持ちで、私の説明をお聞きいただければと思っています。その後、学校の中も見学していただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。今日、お配りしております資料は、まちづくり推進隊が作っております、財田くらしの便利帳、そして本校の学校要覧を置かせていただいております。はじめに、学校紹介をさせていただきます。財田町は、こちらの資料にありますとおり、三豊

市の南端部にあり、阿讃山脈が徳島県との県境に広がっています。財田上地区と財田中地区の2つの地区があり、ちょうど真ん中の位置に、財田小学校があります。本校は、設立6年目の学校です。平成28年に児童数200名でスタートしましたが、少子化により、児童数151名、9月に転入生が2名入ってまいりまして、現在は153名となっています。今後の児童数の推移ですが、令和5年度には130名ほどになることがわかっています。本校の良さのひとつは、恵まれた学校環境であると思っています。先ほどご覧いただきましたが、とても広い運動場は、雨が降っていなければ、体育の授業、課外活動の陸上、外遊びもすべてできます。今朝方も、夜半過ぎからずっと雨が降っていましたが、昼前に雨が上がっていました。すると、子どもたちは昼休みには、元気よく外で遊んでいました。そんな素敵なグラウンドがあります。プールも室内となっていて、雷注意報の心配をしなくても、雨が降っていたとしても、水泳学習ができます。校舎もあとで見させていただきますが、管理する側にとっては、児童の様子が見やすく、児童にとってはコミュニケーションが取りやすい、そんな作りになっています。児童は全般的に、挨拶を良くし、黙って掃除ができ、異学年同士でも兄弟姉妹のように仲が良いです。今日は、三豊市の抗原定量検査を行いました。大変スムーズにできました。教員の話もよく聞くし、自分がすべきこと、それがきちんと守れる子どもたちが多いです。教職員は、こちら要覧を見ていただきますと、県費負担職員が14名、市費職員が9名おります。年齢では、50代40代30代20代と、どの年代もいるバランス良く人員がおります。教職員のさまざまな協力もしやすい体制であるかなと思います。では、質問事項をいただいていますので、順番に沿って、簡単ではありますが、お答えさせていただこうと思っております。はじめに、1番の統合するにあたっての課題と解決で、こちらは私も校長2年目ですので、閉校、また、統合にあたった校長に話を聞いてみました。簡単にまとめてみます。一番の課題であったのが、財田中小、財田上小のスムーズな統合、融合ができるのかということでした。それから、B&Gですね、隣にある社会教育施設との連携がうまくいくかということも、大きな課題としてあったと聞いております。財田中小、財田上小のスムーズな融合について、細かく申し上げて4点、まず、児童がうまく仲良くできるだろうか、ということにして、統合の前年度から様々な行事を共同で行い、新しい学校へ登校する練習も一緒にしたそうです。ただ、良かった面としては、児童たちは財田幼稚園で、同じ園で一緒にいたことがあり、小学校で別れて中学校で一緒になるところが、小学校でも一緒にな

れるということで、子どもたちは、そこまでわだかまりもなく、仲良くできたということでした。2つ目で、2校の教育文化の融合ですが、学校の教務主任、研究主任、管理職で、教育課程や校内研究の内容や行事について、それらをどうするか何回も話し合いを持ったとのことでした。3点目、地域の融合で、財田上地区、財田中地区の代表さんによる学校をサポートしてくださる体制をどう作るか、それも、この時の代表さんがうまく仲を取り持って、統合がうまくなされたということでした。PTAについても、会長や役員との連携をどうとるかということで、両PTA会長がうまく話し合いをしてくださって、2校のスムーズな統合は、児童、教育文化、地域、これらもうまくいくことができたのではないかということでした。大きな2点目のB&Gとの調整という点では、館長さんによくしていただいて、小学校にグラウンドを優先的に使わせようということで、地域の方に掛け合っていたということを知っています。同じ問いの中で、統合後の課題、その解決に向けてということで、お答えをいたします。これは、質問の3番4番5番に関わってきますので、まとめた回答ということにさせていただきます。まず、統合後の課題として、大きく2点です。1つは、安全な登下校、校区の広い財田小学校は、特に課題であったということでした。それについて、細かく3点ございます。1点目、スクールバスの運行についてです。これは、想定はしていたそうですが、想定以上の細かい問題が、日常的に起こったり、解決が難しかったりしました。本校のスクールバスは、1号車吉田便18名、2号車黒川・北地便34名が乗ります。2号車は2往復しています。1号車は、朝7時10分に出発します。2号車は7時5分出発です。一番長い児童ですと、30分ほどバスに乗っていることとなります。短い子は5分ほどです。スクールバス運行の課題として、時間調整が非常に難しいです。つまり、冬場の登校は、日の出前から、バス停まで親御さんが送って来られます。バス停まで歩いて15分ほどかかる家庭もありますので、早ければ6時40分くらいにお家を出るということとなります。出発時間を遅くすると、2号車2往復目の児童は、朝、バス到着と同時に教室に飛び込んで、すぐ授業ということもあります。そのようなことから、朝の準備が慌ただしいという課題がありますが、今のところ、家庭・学校、両方のことを考え、7時5分発と7時10分発という時刻にしています。スクールバス関連の課題で、もうひとつが安全運行です。これについては、保護者の意見もあります。逆に、バスの運転手からいただく意見もあります。朝、職員も一緒に乗って廻りまして、子どもたちのバスに乗るマナーを

確認したり、運転手からの要望を聞いたりして、調整をしております。

3点目、スクールバスに乗れる児童は、学校から半径2kmメートルを超える児童が所属する通学班、またはその自治会の児童が利用できるということで、毎年、年度末には、入学予定児童がバスに乗るのか、乗らないのか、調整が行われます。バス通学になる場合でも、バス停までの距離がすごくあって、親御さんが送迎したほうが簡単に済むというケースもあります。そういったことで、バスの調整の問題が、毎年起きておりますが、常に担当課である教育総務課さまが相談に応じていただいておりますが、私どもとしましては、相談をさせていただきながら、調整を進めているところです。

4点目として、悪天候で警報が発令されたときの状況です。台風などで警報が発令されたときに、学校としては、早くお家の方にお迎えに来ていただけたら、という思いがあり、バス通学については、まず、スクールバスがその時間に運行できるのか、ということを確認めまして、そして、保護者さまがバス停まで来ていただけるのかということも気がかりです。例えば1時30分に連絡して、2時ちょうどに子どもを載せてバスを走らせたとして、お迎えに来てくださいといったところで、ひょっとしたら、お家の方が難しいかもしれない場合もあり、この時間の設定には毎回配慮をしております。お知らせは、なるべく早く送って、迎えは遅めに設定するというので、子どもがより安全に、ご家庭まで帰れるように調整をしております。このような課題がございますが、バスの良い点もあるので、それもお話ししようと思っております。それは、教員の時間管理です。絶対に子どもをこの時間に帰す、バスに乗せないといけないという意識が教員の中にありますので、その日のうちにやり切ることは必ずやり切るという気持ちで、子どもたちの学習や生活指導に、取り組んでおります。

安全な登下校の課題として、もうひとつの徒歩通学についてです。財田中地区は基本自由登校で、財田上地区は集団登校をしております。集団登校をしている中で、例えばトラブルが起こるとします。上級生のお兄さんお姉さんが先に行ってしまう、僕たちを置いていくんだという下級生の訴えがあったとき、私たちとしては班長の児童に指導をします。ところが、その子どもの言い分として、財田中は自由に学校まで来ているじゃないか、何で僕らばかり下級生の世話をしなくてはいかんのや、というちょっとした不満が聞こえるときもあります。そこで、一斉に集団登校しているときは全体指導をしますが、それが難しい場合、財田上の登校班の班長には個別に、なるべく下級生の面倒を見てあげてね、先生からのお願いねということで指導でなく、お願いをしています。それなら、財

田中地区の子どもも集団登校に校則を変えるかということも考えられるところではありますが、統合以前まで自由登校をしてきたお子さんたち、そのご家庭の保護者の方々に、新たに集団登校をしましょうと言うことは、なかなか難しいんじゃないかなということ、現在、本校では、財田上地区、財田中地区それぞれで統合前の登校方式を引き継ぐかたちでやっております。安全な登下校として、もうひとつ、この付近、サルが時々出ます。月に一回ほど、この学校の裏のあたりにも出てまいります。登下校中にサルが出た場合には、必ず近くのお家に助けを求め、もしくは学校まで引き返して来るようにということで、野生動物にも注意をなさいと指導しています。これらのように、校区が広いので、学校としても、安全な登下校に気を配っているところです。統合後の課題として、大きな2点目、PTA役員組織についてです。こちらについては、質問1の後半部分にあたるかと思えます。本校では、今年度の家庭数が121世帯ということで、学校の4割くらいの方がPTAの役員を受けてくださっていますが、自治会でお子さんの数が少ないところは毎年何かしらの役員をされている方がおり、下級生のうちに一度受けていただくと、もう自分は結構ですと言われる方もおり、6年生に上がったときに、保護者の中でPTA役員さんの成り手がいない、そういうふうな問題が、すでに起こっています。そこで、今年度は組織を縮小し、活動内容も見直し、コンパクトにして、必要な活動でPTAを続けていきたいと考えています。質問1番の統合後の課題ということで、関連して3番4番5番の回答とさせていただきます。続きまして、質問の2番、タブレットのことについてですが、今、財田小学校では、3年から6年までは、毎日1回以上、活用をしています。内容としては、ドリル学習、スカイメニュー、カメラ機能、児童用デジタル教科書などです。また、本校では、持ち帰り学習のために、グーグルクラスルームを利用して、各学級ごとにグループを作り、チャットができる準備をしています。教諭は、週1回程度、校内でICT研修をしており、操作についても徐々に、慣れてきました。授業研究の場では、ベテラン教員が若手に教えることが多いのですが、ICT研修については、逆に、若手がベテランに教えるという場面が見られ、良い機会になっています。家庭の通信環境についての把握や、実際にどれだけ通信がつながるかというテストはまだです。データの管理等については、まだ十分ではありませんので、市教委の指導を受けながら、進めていきたいと考えます。本校が、タブレット持ち帰り学習について考えていることですが、ただ持ち帰らせればよい、その回数を増やせばよいということではな

く、十分に学校で慣れさせてから、その必要性があるときにすべきと考えています。特に、低学年に対しては、持ち帰るときの重さの負担、安全性、ご家庭への負担などを十分考量して、進めていきたいと考えています。最後に、統合後の保護者地域の声について、地域の皆さまからは、学校が新しくなったことへの喜びや、たくさんの友達との交流や切磋琢磨を良く思っている声が多いと感じております。財田上地区、財田中地区が一つになって、財田町全体の子どもたちのために、と考えていただける地域の方に支えられているなど感じています。PTAの方々も、会長さんが委員さんとしてこちらに見えていますが、友好的で協力的で、一つの課題に対して建設的な意見がたくさん出る、心強い仲間がいると思っております。私自身も、校長として、地域の方と想いを共有して、財田の子どもたちを、支えあい、学びあい、たくましく生きる子どもの育成に尽力していきたいと考えております。以上、簡単ではございますが、質問に答えさせていただきました。ありがとうございました。

事務局

ありがとうございました。学校の特色も織り交ぜながら、ご回答いただきました。財田小学校ならではの、サルの問題、以前も校長先生とお話しさせていただきましたが、校庭で子どもたちが遊んでいるときにサルが出たら、避難訓練の時のように、順番に教室に帰っていく、そういったことができているとお聞きしております。逆にイノシシを見られたことがないということでしたが、そのようなことも、実際お話を聞かないとわからないところだと思っております。この後、施設見学のほうに移らせていただきます。よろしく申し上げます。

丸岡校長

それでは、お荷物は、お持ちいただけたらと思います。本校教頭の奥田が案内いたします。

<施設内見学>

事務局

それでは、お時間を割いて案内していただき、ありがとうございました。大変、参考になりました。それでは、バスのほうに向かいます。

<乗車後、車中>

事務局

バスの中ではありますが、少々お時間をいただけたらと思います。本日はお疲れさまでした。この後、委員長に講評をいただき、次回の開催日程などを取り決めて、終了とさせていただきます。

委員長

皆さんお疲れさまでした。少し予定の時間を超過しておりますけど、3つの学校から丁寧な説明と、中のほうも見せていただき、参考になったのではなかったかなと思います。それぞれ、中学校の比較で、規模の違いであったり、財田小のほうも新しくきれいな校舎で、有意義など言

事務局

いますか、見ていて楽しく、今の子どもたちはこんなところで学んでいるのかということで、いわゆるオープンスペース、教室と教室の間であったり、この4月から入ってきたタブレットのことであったり、それから、和光中の校長先生から少子化の影響で部活動が難しくなっていることとか、色んな観点、これまでの話を確認したところもありますし、それと、最近の学校の施設の作り、どんな学校になるかの可能性と
いうか、未来に向けて色々な形があるのだということイメージできたのではないかと思います。委員の皆さまも、何かお考えになったことがおありでしょうか、また次回の中で、そのことを発言いただける機会があれば良いと思っています。ありがとうございました。

ありがとうございました。次回の日程としまして、会場の都合もあり、10月19日火曜日の午後3時からお願いしたいと思います。場所は、危機管理センター3階のほうで、お願いできればと思います。よろしいでしょうか。また日程が近づきましたら、ご案内分などお送りして、出欠の確認をさせていただけたらと思います。よろしく願いいたします。議題については、第4回となりますので、適正規模・適正配置の考え方ということで、本題のほうに入ってまいりたいと考えています。よろしく願いします。今回、視察をしてみて、中学校の適正規模・適正配置を比較して見ていただくようにいたしました。今度の会で、議論していきたいと思いますので、よろしく願いします。それでは、貴重なお時間をいただきありがとうございました。他、何かございましたら、この場でこれだけは、ということはないでしょうか。それでは、また来月お願いしたいと思います。ありがとうございました。